

2021年度 済生会ソーシャルインクルージョン計画補助

No.	支部	施設名	活動のテーマ	主な対象	活動の概要
1	北海道	北海道済生会支部	済生会ビレッジを活用した新たなコミュニティ戦略(ウエルネスチャレンジ事業)	地域住民	大型商業施設に開設した済生会ビレッジで、非接触型のコミュニティとして市民に対し健康増進、健康情報を提供するウエルネスチャレンジ事業など、自宅にしながら運動改善ができる情報を提供する。
2	福島	川俣地域ケアセンター	オンラインでの地域住民間の交流促進	地域住民	コロナ禍における地域住民間の交流の希薄化、孤立化している状況に対し、オンラインで交流することで住民の生活課題に対応していく。
3	埼玉	川口総合病院	出張健康教室・サロン(暮らしの保健室)	高齢者、障害者、地域住民	地域住民のつながりの再構築を目的に、地域に出向き、住民の介護・疾病予防のサロンや健康教室を行なう。
4	神奈川	神奈川県病院	なでしこ保健室	地域住民	イオンスタイル東神奈川店内に出張相談ブースを設け、医療・介護の相談に応じる。
5	神奈川	神奈川県病院	地域における買い物支援ネットワーク	高齢者	地域の買い物難民支援、引きこもり予防のために、町内会、地域包括支援センターと協働した買い物支援ネットワークを構築する。
6	神奈川	神奈川県病院	オレンジプロジェクトへの参画	地域住民	商店街、大学、地域包括支援センターと協働した認知症の啓発活動を行なう。
7	神奈川	横浜市東部病院	東部病院15周年壁画制作プロジェクト〜アートを通じたインクルージョン〜	障害者、地域住民	障害者の文化芸術活動(エイブルアート)を通じて地域住民のコミュニケーションを喚起し、支え合う社会に寄与する活動を行なう。エイブルアートを通じて、病院を病気を治す場所だけではなく、地域のよりどころとなることを目指す。
8	香川	香川県済生会病院	フードバンク協力事業	生活困窮者	特定非営利活動法人フードバンク香川に協力し、賞味期限が近づいた非常食や不要な食品等の提供を行なう。
9	香川	なでしこ香川	災害弱者、地域と協力した災害訓練	地域住民	地域住民と共に、ハザードマップから予想される災害とリスクを学び、災害発生時を想定した訓練を行なう。

ソーシャルインクルージョン 推進計画9事業に補助

医療や福祉サービスを通じて、誰もが排除されずに、地域住民の一員として暮らせるよう、済生会は「ソーシャルインクルージョン」の考えに基づき、さまざまな取り組みに取り組んでいる。その活動を支援する補助対象事業として、今年度は7施設・9事業に合計920万円が補助されることになった(表)。

2020年7月にスタートしたソーシャルインクルージョン推進計画では、各支部・施設から1641の事業がリストアップされた。地域住民の交流や障害者就労の支援など、行政や企業と積極



ニュース済生

発行所 社会福祉法人済生会
 東京都港区三田1-4-28 三田国際ビルディング21F 〒108-0073
 電話 03-3454-3311
 FAX 03-3454-5576
 編集兼発行人 炭谷 茂

https://www.saiseikai.or.jp/

高松宮記念基金にご協力ください

令和3年1月~7月分実績

◎本会会員加入状況	39,753人	83.7%
	45,502口	9,100万円
◎外部会員加入状況		
◎一時寄付状況	23件	46万円
	(内、自販機関係)	27万円
◎募金箱		23万円

4 議案を審議

施設運営委員会が8月3日、本部で開かれた。審議4件、報告5件だった。

【審議】①経営指導施設(病院)の指定並びに経営指導委員の指名(案)②経営指導施設(老健・特養)の指定並びに経営指導委員の指名(案)③

情報化推進委員会

情報化推進委員会が7月14日、本部で開かれ、デジタルトランスフォーメーション(DX)への対応方針が検討された。

前回の本委員会で、済生会のDX対応方針を検討していくために先進的な病院やメーカー等による講演を交えて議論していくことが必要とされたことを受け、この日はGEヘルスケア・ジャパ



神奈川県病院「なでしこ保健室」



北海道済生会支部「済生会ビレッジ」

④経営状況(老健・特養)

および無料低額診療実施状況報告⑥専門小委員会の結果概要(共同治験・共同購入)(経営管理課)

①なぜ今DXが必要か

②医療DXの展望③今何をすべきかの三つをテーマに、基礎知識から今後の医療を取り巻く環境や政策の方針等、具体的な導入事例を交えて解説。地域医療再編と技術革新が同時進行する中で組織として生き残るためDXを推進し、先を見据えた戦略と経営層のリーダーシップが重要と訴えた。

「SWS研修」もオンライン開催

医師臨床研修専門小委員会が8月5日に本部で開かれた。委員の改選に伴い、委員長に塩出純二氏(岡山済生会総合病院院長)、委員長代理に登谷大修氏(福井県済生会病院院長)が選出された。医師の研修事業について、昨年は新型コロナウイルスの影響で中止が相次いだことから、全国済生会臨床研修指導医のためのワークショップ(SWS)は、オンラインで開催するこ

「済生会の10年」の執筆準備を

済生会は今年5月30日創立110を迎え、本部広報室は創立101年から110年までの10年間の動きをまとめた記念誌を編纂します。西暦では大まかに2012年から21年に当たります。法人全体編と支部・施設編

創立110周年記念誌を刊行へ

7月20日、本部で広報委員会が開かれ、委員の改選に伴い、伊藤秀一委員長(和歌山県済生会支部)が委員長に選出された。

臨床研修管理担当者研修も、オンライン開催

検討、専門医制度などのテーマ等が議論された。済生会初期研修医のための合同セミナーは、済生会学会・総会の規模縮小により開催しない方針となったことが報告された。なお、研修医向けに、民間の施設を活用したシミュレーション研修の検討もされ、引き続き検討することとなった。

の2部に分かれ、法人全体編は本部事務局、各支部・施設編はそれぞれの支部・施設に執筆してもらいます。9月に原稿の文字数や締切などを記した出稿要領をお届けしますので、執筆担当者を決めるなど準備をお願いします。

審議事項では、済生会創立110周年記念誌発行の外部情報媒体の活用では、積極的なニュースリリースを発信していくために、済生記者をはじめ職員の情報に対する意識をより一層高める必要があることが説明された。また、済生会の横断的研究組織「広報実務研究会」の松岡志穂会長(京都府病院企画広報室長)から同研究会の取り組みと、本部広報室との連携をさらに強化していく方針が報告された。

第2期中期事業計画のうち、広報に関わりがある分野として「済生会プラットフォームの確立と発信」の進捗状況が報告された。目標を大幅に上回る済生会ホームページのアクセス状況、済生会のカンパニーの刊行、済生会フェア等のイベントの開催などは計画どおりに進んでいる。一方で、メディア等の外部情報媒体の活用では、積極的なニュースリリースを発信していくために、済生記者をはじめ職員の情報に対する意識をより一層高める必要があることが説明された。

行計画を議論。本年5月30日に創立110年を迎えたのを記念して、101年から110年の記録をまとめた「10年誌」と子どもを読者対象とした「絵本仕立ての済生会の歴史パンフレット」の刊行が提案された。委員からは、絵本は親や祖父母も子や孫と一緒に楽しめるメリットがあつて良いなどの意見があつた。報告事項では済生会の

支部別 済生会の障害者雇用状況

《令和3年6月1日現在》

Table with 6 columns: 支部名, 常用雇用労働者数(人), 算定基礎となる労働者数(人), 雇用済障害者の数(人), 雇用率(%), 障害者過不足数(人). Rows include 北海道, 岩手, 宮城, 山形, 福島, etc.

障害者雇用率2・44% 法定引き上げも基準達成

令和3年6月1日現在の済生会の障害者雇用状況がまとまった。本会全体の雇用率は2・44%で、前年度の2・39%より0・05ポイント増加した。国は今年3月、民間企業の障害者の法定雇用率を2・20%から2・30%に引き上げたが、済生会全体ではこの基準をクリアした。雇用障害者数は961・5人(短時間労働者は0・5人としてカウント)で、前年度年比で31人増加した。

新任施設長の抱負



いばしましゅんこ 茂木 淳子

昭和35年生まれ。滋賀県出身。57年近畿大学附属看護専門学校卒業。平成5年富田林病院入職。平成20年看護副部長を経て、令和3年8月富田林



新任看護部長研修3日間 63人がオンライン参加

新任看護部長研修が7月14、15、16日に本部で開催され、60の病院と訪問看護ステーション、介護老人保健施設から63人がオンラインで参加した。

特別養護老人ホーム富美ヶ丘に施設長に就任。当施設は昭和56年に開設し、平成27年にユニット型施設として生まれ変わりました。『入居者様の個性豊かな尊厳ある日常生活を支援します』を理念とし、富田林医療福祉センターの一員として、地域の方々に愛される施設を目指し努めてまいります。

「看護師長になり経験したうれしい出来事」をテーマにグループ内で討議。栗原氏は「現場で経験したこの学びは自身への成長へとつながる」とエールを送った。唐津病院の岩崎理佳看護部長は、看護管理者は、社会情勢の動きを注視して、患者や家族のニーズの変化を俯瞰し、ビジョンを持って役割を果たすことが重要と訴えた。

3日目は、東京外国語大学の市瀬博基氏が「ポジティブ・マネジメント」自ら考え、行動し、助け合う組織をつくる」と題し講義。職場の学びと成長は、協働と対話から生まれ、そこから仕事の「意味」を見出すことをサポートしていくことが必要と語った。

ソーシャルインクルージョンのさまざまな形を「知る・見つける」をテーマにした済生会記者研修会が7月19日に済生会本部からリモートで配信され140人が参加した。この研修は、済生会記者に求められる知識や技術の習得及び広報に対する意識等を醸成するため平成24年度から開催。28年度からは済生会の横断的研究組織「済生会広報実務研究会」と共催しており、この日のプログラムは同研究会が企画した。はじめに、本部総合戦

略課・鎌倉安男氏が、ソーシャルインクルージョンは済生会の第2期中期事業計画(2018〜22)の中で、本会の使命の現に向けて企業や団体と協働していることを説明。イオンモールやUR都市機構等の事例を紹介し、広報担当者と一緒に済生会のソーシャルインクルージョンを推進していきたいと訴えた。発達障害児が通う放課後等デイサービスの会社を運営、日本障がい者フアッション協会の代表理事でもある平林景氏(写真中央)が講演。美容師や専門学校の教員などの自身の経験を生かし、「おしゃべりで世の中の福祉に対するイメージを明るく華やかにしたい」と制作した、車いすに乗る人でも着やすい巻きスカートの「ポトモール」の開発秘話を紹介。2022

9月の予定 7日IIコンプライアンス研修 10日II中四国ブロック会議 21日II施設運営委員会 24〜25日II全国済生会臨床研修指導医のためのワークショップ 28日II支部未設置県解消済生会の基本的あり方に関する検討会 29日II情報化推進委員会

Advertisement for '名刺'S Meishi (Business Card) featuring 'Fudemoji Meishi' and 'Shirahashi' logo.

Advertisement for '済生会グループ保険のご案内' (Shiseikai Group Insurance) listing various insurance plans like 'グループ保険', 'ゆうゆうライフプラン', and '終身医療保障プラン'.